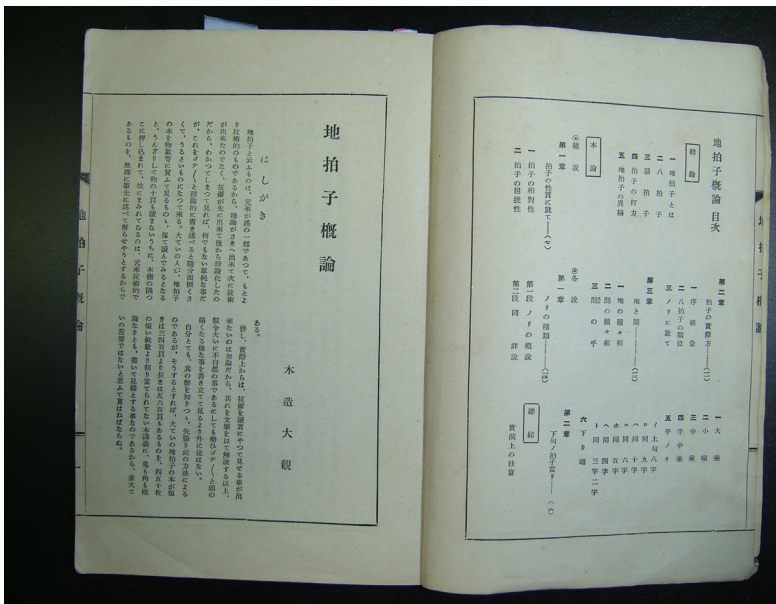
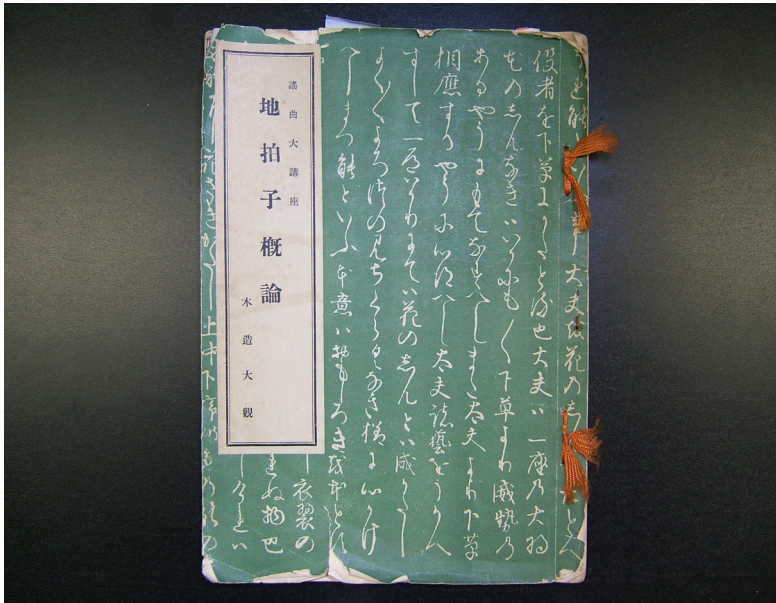


木造大観 『地拍子概論』

著者は『謡曲界』を中心にし、山崎楽堂の拍子論への批判を行った人物。本書は、地拍子の割付けを説明するのではなく、地拍子という名称の定義、歴史、扇拍子等関連事象の説明等が有益である。本論で著者は、拍子運用面としての「ノリ」に言及。その図示をも試みる。ノリが単に拍子合の名称ではないことに、十分な注意を払っている点が特徴的である。本書後半では、拍子の進化が論じられるが、必ずしも成功していない。しかし、小唄と頭二付の当たりの類似性を指摘する等、卓抜な発見もある。



標題 内題…地拍子概論

標題紙…地拍子概論

奥附…

その他…謡曲大講座 地拍子概論(題

簽)、地拍子概論(目次)

著者 奥附…

その他の場所…木造大観(巻頭・標題紙・

題簽)

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…謡曲大講座刊行会

出版年…昭和9(1934)

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…二八丁

寸法…25×17(cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考